

『マイクロ動画の前に！ 説得力のある口腔内写真を撮ろう！』



兵庫県開業 高田 光彦

マイクロスコープの普及にともなって治療内容の動画記録を行う医院も増えつつある。

動画でのプレゼンテーションは患者にとっても非常にインパクトの大きなものであるため、当院においても『その日の治療内容』の患者向けプレゼンテーションに多用している。

しかし動画での説明には欠点もある。ミラーの揺れや患者の体動、シビアなピント調整など”魅せる映像作り”の為には乗り越えなければならないハードルが多い。

また、”治療前後の比較”や”見せたい映像の検索”等はそれらの作業に特化した映像録画編集機器を持っていなければ非常に手間がかかってしまう。術者の技を魅せるためには動画は非常に有効だが、全顎的なコンサルテーションに置いては少し不満が残ってしまう。

静止画について見ると、マイクロユーザーの多くが動画からのキャプチャーで切り出した静止映像を使っているのを見受ける。

しかし、これはあまり美しい映像とはいえない。たとえハイビジョン映像と言えどもたかだか200万画素程度の画質であるために迫力の乏しい静止画になってしまう。

やはり、原点に立ち返って右手にカメラを構えて”写真を撮る”ことが重要ではないだろうか。

動画全盛期の現代では”今更”な話ではあるが、ピントと構図が的確な”写真”は非常に説得力がある。にも関わらず、日常的に口腔内写真を撮影している医院は数少ない。理由はなぜか？

フィルム時代にはカメラメーカーから口腔内撮影専用機が販売されていたが、現在ではそのような機種は無くサードパーティから発売されている機種もその多くが重く、ピントもフラッシュの光量もマニュアルで調整する必要があるため導入へのハードルは高い。

軽量でピント合わせもフラッシュの光量もオートで撮影できる機種であればハードルも低くなり撮影頻度を上げることが可能であろうと考え、簡便なカメラシステムを構築したので紹介したい。

しかし写真は器械を揃えれば撮れるというものではない。そこで、フラッシュメーカーのニッシンジャパンの協力の下、口腔内写真撮影方法の動画マニュアルも作成したのであわせて紹介したい。

また今回、顕微鏡を用いた静止画撮影システムの試作機の紹介も少しだけ行いたい。

<プロフィール>

岡山大学歯学部卒業

日本顕微鏡歯科認定医

日本口腔インプラント学会 会員

日本臨床歯周病学会 会員

日本歯内療法学会 会員

日本歯科保存学会 会員

日本補綴歯科学会 会員

日本接着歯学会 会員

日本歯科審美学会 会員

日本顕微鏡歯科学会 会員

大阪口腔インプラント研究会会員

歯科臨床研鑽会 主宰

DSSE スタディクラブ 会員